



**Fiorano SOA プラットフォームのインストールと
評価用ライセンスの適用**

対象バージョン : 2007 SP7 および 9.0.0

はじめに

このガイドブックは、Fiorano SOA プラットフォームのインストール方法について説明するものです。

このガイドブックの他に、以下のガイドブックも用意されています。併せてご参照ください。

- Fiorano SOA プラットフォームのダウンロード (製品インストーラと評価用ライセンスの取得方法)
- Fiorano SOA プラットフォームの起動方法
- Fiorano SOA プラットフォームのアーキテクチャ概要
- Fiorano オーケストレーターによるビジネス プロセス構築の概要

目次

1. インストール.....	3
1.1 インストールされる製品コンポーネント	3
1.2 システム要件.....	4
1.3 インストール手順	6
2 インストール完了後のフォルダー内容.....	11
3 ライセンス ファイルのインストール	13
3.1 ライセンス ファイル (fiorano-soaX.lic) のコピー	13
3.2 ライセンスの確認方法.....	13
4 Fiorano SOA プラットフォームのアンインストール.....	16
4.1. インストーラ Wizard によるアンインストール	16
4.2. Windows の [スタート] メニューから実行.....	16
4.3. スクリプト ファイルの実行による方法.....	17

1. インストール

1.1 インストールされる製品コンポーネント

ダウンロードしたインストーラは、Fiorano SOA プラットフォームの全コンポーネントをインストールします。

Fiorano SOA プラットフォームに含まれる主要なコンポーネントには、次のものがあります。

- ◆ サーバー
 - ESB Server (ESB サーバー)
 - ESB Peer (ピア サーバー)

- ◆ ツール
 - Fiorano Studio (サーバーのコンフィグ、ビジネス プロセスの構築と実行)
 - Web Console (ブラウザ ベースのダッシュボード形式の監視ツール)
 - Service and Security Manager (セキュリティの設定と新規サービス コンポーネントの追加)
 - Event Manager (実行中のビジネス プロセスのログ情報、データ内容、サービスのステータスなどの閲覧)
 - Deployment Manager (ビジネス プロセスのデプロイメント ルールの設定ツール)
 - Network Administration Tool (ネットワークの管理)
 - License Manager (ライセンスの管理)
 - Fiorano Mapper (XSLT を利用したデータ スキーマ間のマッピング ツール)

- ◆ リポジトリ
 - プリビルト サービス コンポーネント
 - サンプル ビジネス プロセス

通常のインストールでは、上記以外に次のものもインストールされます。

- Sun JRE 1.5.0
- 製品デモ (Flash による自動デモ)
- 各種の補完ソフトウェア (DBMS や XML 処理用のオープン ソース ソフトウェアなどで、ビジネス プロセス構築やプロトタイピング、シミュレーションに利用できます。)

Fiorano SOA プラットフォームでは、複数の ピア サーバーをネットワーク上に分散させて配置するなど、各サーバーを分散させた環境を構築できます。

製品評価においては、Fiorano サーバー (ESB サーバーおよびピア サーバー) のそれぞれ 1 個を単一のハードウェア (マシン) 上で稼働させることをお勧めします。本書で説明している通常のインストール方法に従えば、インストーラを実行するマシン上に ESB サーバーおよびピア サーバーがインストールされます。また、必要なサーバー コンフィグレーションも自動的に設定されます。

1.2 システム要件

Fiorano SOA プラットフォームのサーバーは、JRE 1.5 以降がサポートされているプラットフォーム (OS) であれば稼動することができます。代表的なプラットフォームには以下のものがあります。

Windows

WindowsNT Server / XP Professional / Vista

Unix / Linux

Red Hat Linux

Sun Solaris

HP-UX

IBM AIX

Tru 64 UNIX

その他の Unix および Linux システム

その他のプラットフォーム

Apple Macintosh

IBM AS 400

次の表は、Fiorano サーバー (ESB サーバーおよびピア サーバー) とツール群の稼動に必要なシステム要件を示しています。

	CPU	メモリ (RAM) サイズ	ディスク容量
ESB サーバー	最少 : 1 CPU 推奨 : 2 CPU (またはデュアル コア)	最少 : 512 MB 推奨 : 2 GB	最少 : 750 MB 推奨 : 10 GB
ピア サーバー	最少 : 1 CPU 推奨 : 4 CPU (またはクアッド コア)	最少 : 512 MB 推奨 : 8 GB	最少 : 500 MB 推奨 : 10 GB
Fiorano Studio	最少 : 1 CPU 推奨 : 1 CPU	最少 : 128 MB 推奨 : 512 MB	最少 : 500 MB 推奨 : 500 MB
その他のツール	最少 : 1 CPU 推奨 : 1 CPU	最少 : 128 MB 推奨 : 256 MB	最少 : 500 MB 推奨 : 500 MB

ESB サーバーとピア サーバーを同一マシン上で稼動させる場合は、次の表に示す環境が必要となります。

	CPU	メモリ (RAM) サイズ	ディスク容量
ESB サーバー + ピア サーバー	最少 : 1 CPU 推奨 : 4 CPU (またはクアッド コア)	最少 : 1 GB 推奨 : 8 GB	最少 : 1 GB 推奨 : 10 GB

複数のピア サーバーを同一マシン上で稼動させる場合、ビジネス プロセスの複雑さやデータ サイズなど多くの要因によって必要となる環境が異なってきます。次の表は、単一のピア サーバーに必要な稼働環境を示しています。この値に単純にピア サーバーの数を掛ける必要はありません。オーバースペックな環境となってしまいます。ビジネス プロセスのテスト時などに Fiorano Web Console 監視ツールを用いてメモリや CPU の負荷状況を監視し、本番稼動に必要な環境を決定するようにしてください。

	CPU	メモリ (RAM) サイズ	ディスク容量
複数ピア サーバー	最少 : 1 CPU 推奨 : 4 CPU (またはクアッド コア)	最少 : 512 MB 推奨 : 8 GB	最少 : 500 MB 推奨 : 10 GB

Fiorano SOA Version 9.0.0 には、Sun JRE (version 1.5.0_16) が同梱されています。通常のインストールではこの JRE

が使用されるよう設定されますので、ユーザー側で JRE のバージョンについて特に考慮する必要はありません。
 もちろん、他の JVM をお使いいただくことも可能です (その場合、環境変数の設定が必要となります)。

ディスク容量の値は、インストールに必要な容量 (約 400MB) と稼働時に必要となるディスク スペースの合計値です。ビジネス プロセスの稼働時には、ログやメッセージ保存など様々な目的でディスク スペースを使用します。この容量は、送受信するメッセージの大きさや頻度、ビジネス プロセスの複雑さなど、多くのパラメータに依存します。

ビジネス プロセスのテスト実行時に本番で必要となるディスク スペースを割り出すようにしてください。また、最もディスク スペースを必用とするログ記録は、パラメータ設定によってログ ファイルのサイズや数を変更できます。

ピア サーバーの メモリ (RAM) サイズは、Fiorano プリビルト コンポーネントの実行に必用なサイズを含んでいます。

[評価目的で Fiorano SOA プラットフォームを稼働させる場合について]

評価目的で稼働させる場合、ESB サーバー、ピア サーバー、各ツールを同一マシンで実行させることをお勧めします。

また、評価用のビジネス プロセスがさほど複雑でないことを想定すると、すべてのサーバーやツールを単一マシンで実行しても、次の表に示した最小値で充分に対応できるものと思います。

	CPU	メモリ (RAM) サイズ	ディスク容量
ESB サーバー + ピア サーバー	最少 : 1 CPU	最少 : 1 GB	最少 : 1 GB

1.3 インストール手順

Fiorano SOA 2007 のインストールは、プラットフォームによって次の 2 種類の方法に分かれています。

- Wizard によるインストール : Windows 版、Linux 版、Solaris 版
- tar ファイルの展開 : Unix 版

ここでは、Wizard によるインストールについて説明します。tar.gz 形式になっている Unix 版をインストールするには、gz 形式での圧縮を解凍し、tar ファイルを展開してください。これで、所定のディレクトリに必要なファイルがインストールされます。

Wizard によるインストール (Windows、Linux、Solaris) の場合、デフォルト設定のパラメータで行ってください。

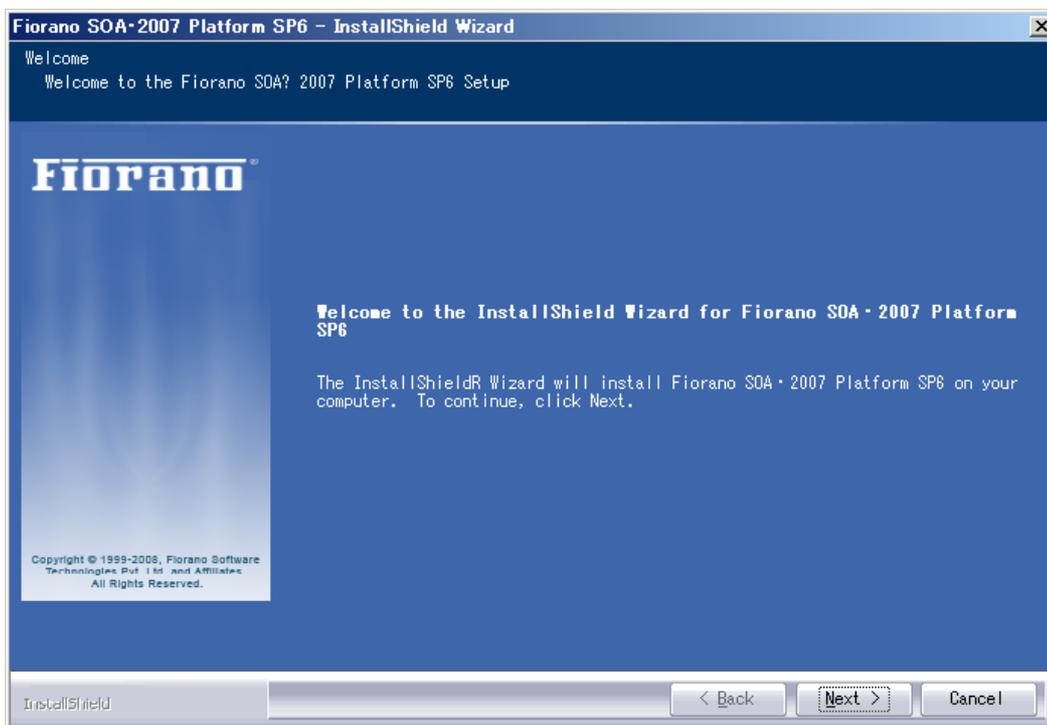
以下に、Wizard による手順とデフォルトのパラメータ設定について説明します。基本的には、デフォルトで選択されているパラメータや項目を変更しなければ、OK です。

1. Wizard の起動

ダウンロードしたインストーラ (exe もしくは bin) を実行します。

Wizard は最初に、Fiorano SOA プラットフォームのインストール状況をチェックします。既存のインストールが無い場合には、次の welcome ページが表示されます。これとは異なるページが表示される場合は、インストールしようとしている SOA プラットフォーム同一のバージョンが既にインストールされていることを示しています。新たに再インストールを実施したい場合には、表示されたページにある [remove] を選択してアンインストールを行ってください。その後、再度 Wizard を起動し、インストールを行います。

[Next >] ボタンをクリックしてください。



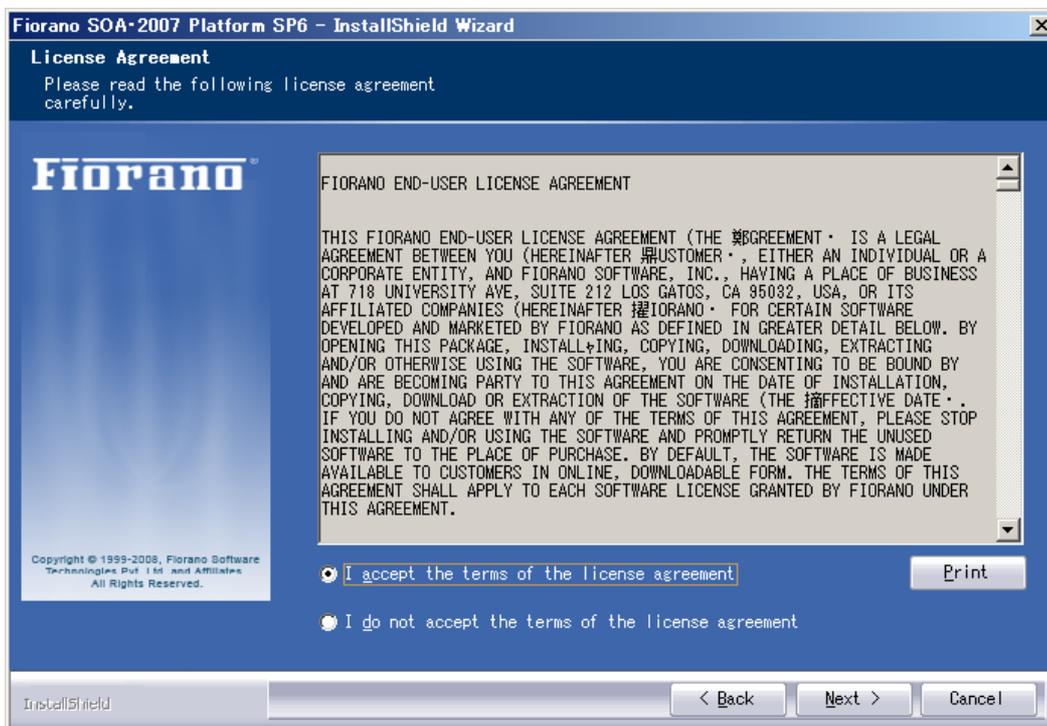
2. エンドユーザー使用許諾の同意

「エンドユーザー使用許諾」が表示されますので、

[I accept terms of the license agreement]

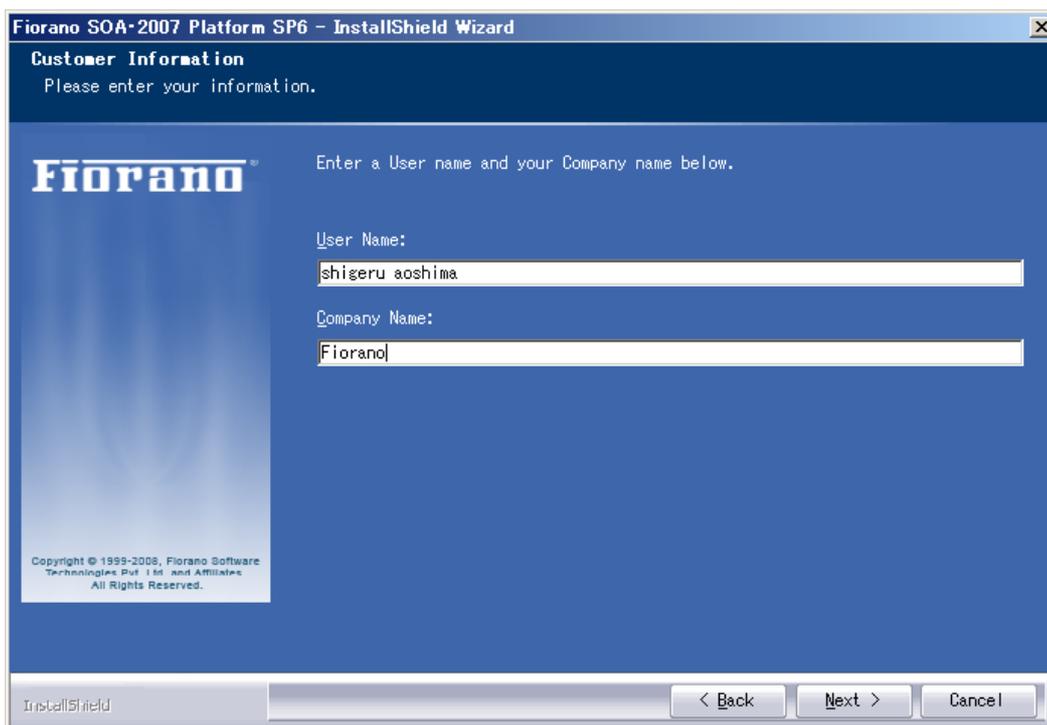
を選択してください。

[Print] ボタンをクリックすると、「使用許諾契約書」の全文を印刷することができます。



3. 使用者と会社名の指定

任意の名前を指定することができます。



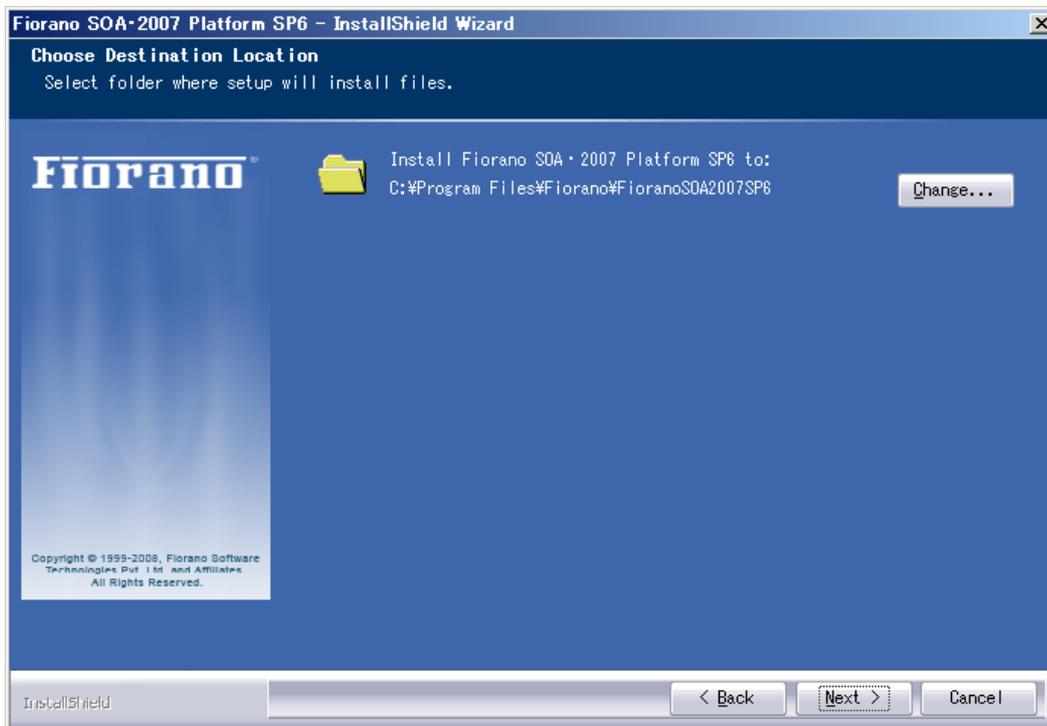
4. インストール ディレクトリ (フォルダー) の指定

デフォルトのフォルダーがあらかじめ指定されています。デフォルトのままとしておくことをお勧めします。

C:\Program Files\Fiorano\FioranoSOAXXXXXX (Windows)

/home/Fiorano/FioranoSoaXXXXXX (Unix 版、Linux 版)

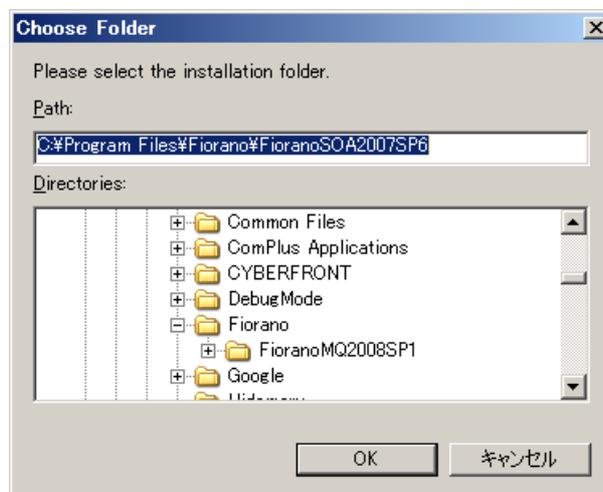
XXXXXX は、バージョン番号を示しています。



再インストールの場合、このフォルダーが存在している可能性があります。これは、アンインストール時に、ログ ファイルを削除せずに残しているためです。

ポップアップされたダイアログ ボックスで、[Over write] を指定します。ログ ファイルは削除されずに、残ります。不要であれば、事前に削除しておいてください。

デフォルトのフォルダーとは異なる場所にインストールする場合には、[Change] ボタンをクリックします。表示されるダイアログ ボックスでインストール先のフォルダーを指定します。



5. インストール タイプの選択

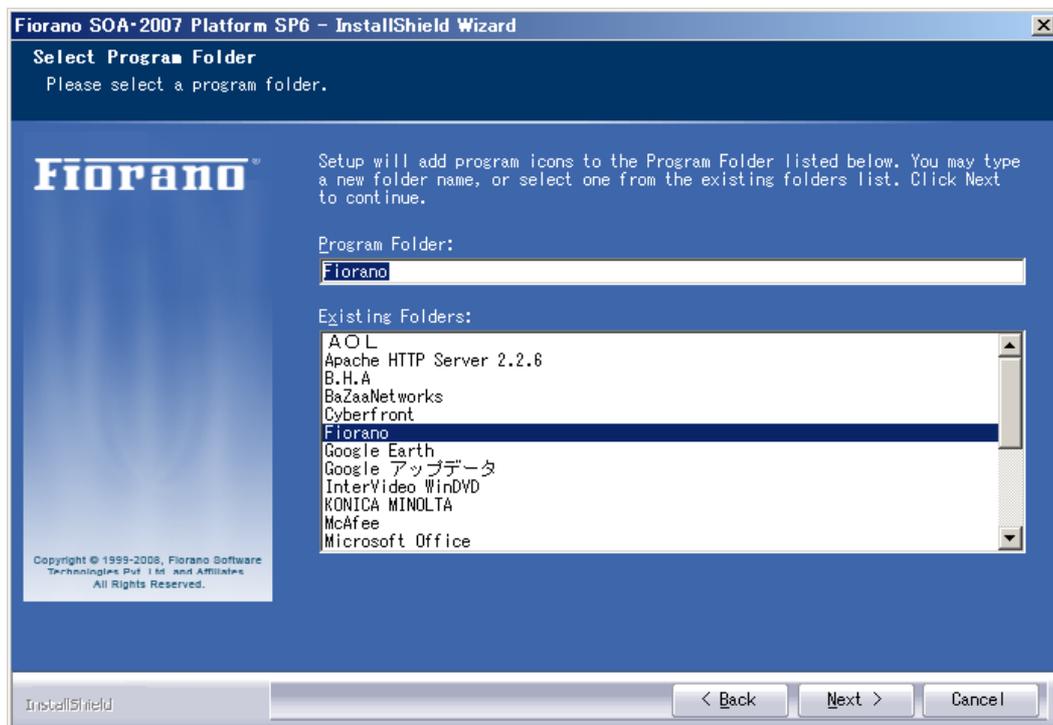
インストールのタイプを選択します。

最上段の [Enterprise] を選択してください。これで、すべてのコンポーネントをインストールすることができます。



6. Program フォルダーの指定

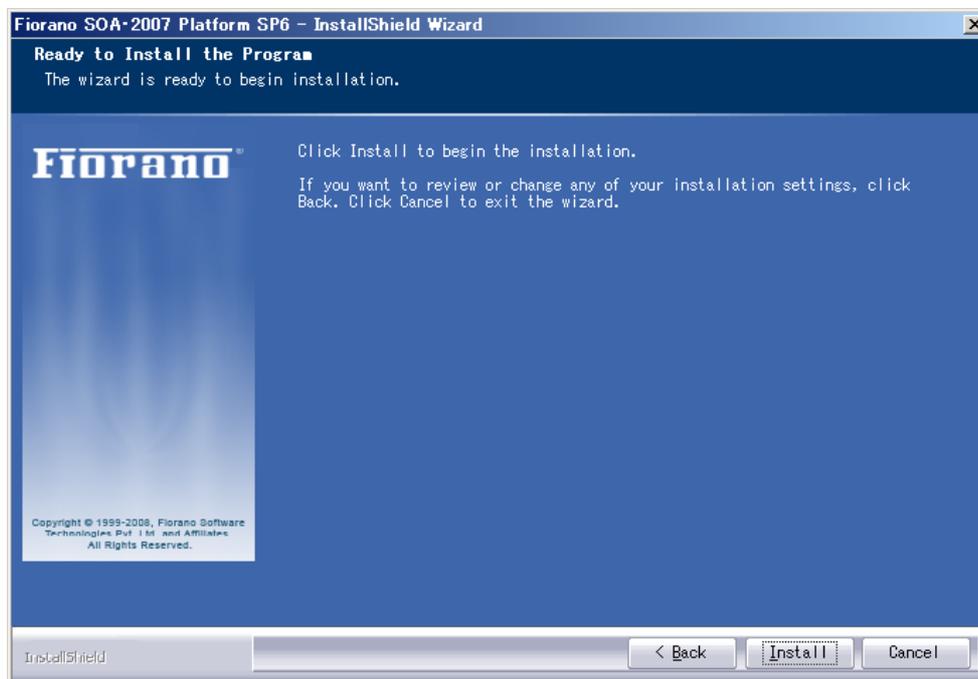
デフォルトの “Fiorano” をフォルダー名として指定してください。



7. インストールの開始

[Install] ボタンでインストールを開始します。

設定をやり直す場合は、[Back] ボタンで戻ってください。



8. インストールの終了

次の画面が表示されたら、インストールの完了です。[Finish] ボタンをクリックしてください。



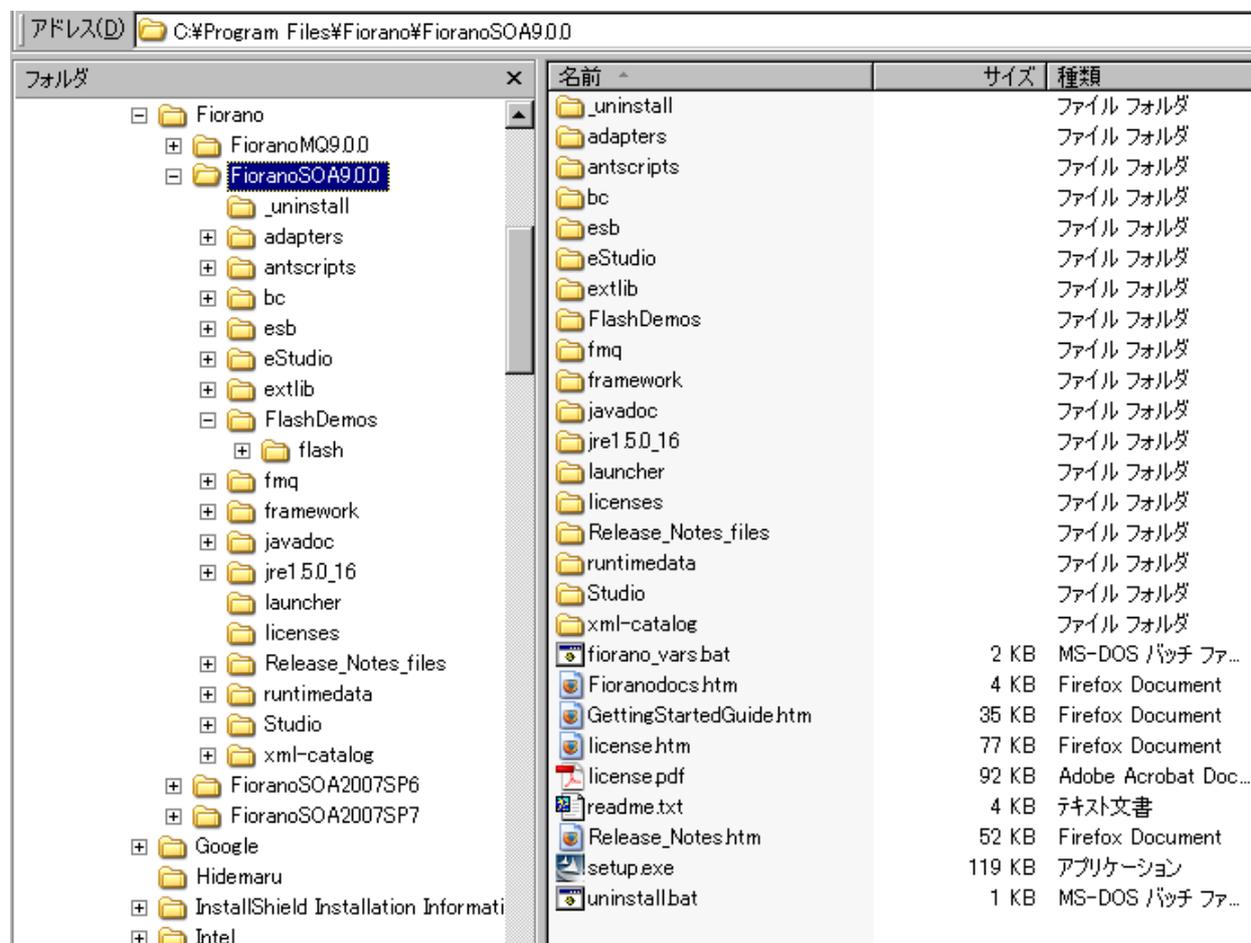
インストールが完了しても、Fiorano SOA プラットフォームを起動することはできません。
 起動するためには、ライセンス ファイルのインストールが必要です。『1.5 ライセンス ファイルのインストール』の手順を実施してください。

2 インストール完了後のフォルダー内容

下図は、インストール完了後の

C:\Program Files\Fiorano\FioranoSOA9.0.0 (Windows 版)

の内容を示しています。



以下に、評価作業に際して重要と思われるフォルダーやファイルについて Windows 版を例に説明します。

1. ユーザー マニュアル

弊社の Web サイトからダウンロードしていただけます。インストール ディレクトリにある次の htm ファイルをブラウザで開いてください。ダウンロード先の一覧が表示されます。

C:\Program Files\Fiorano\FioranoSOA9.0.0\Fioranodocs.htm

日本語 Web ページ (下記の URL) からは、製品マニュアルとともに日本語ガイドブックもダウンロードできます。

http://www.fiorano.com/jp/whitepapers/wp_fsoa_doc.php

2. ライセンス ファイルのインストール先フォルダー

C:\Program Files\Fiorano\FioranoSOA20079.0.0\licenses

*** 詳細につきましては、『1.5 ライセンス ファイルのインストール』を参照してください。

3. 各サーバーの起動、停止用の .bat ファイル

次のフォルダーに、起動、停止用の .bat ファイル (Unix / Linux 版では、.sh ファイル) が格納されています。

```
C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoSOA9.0.0¥Yesb¥server¥bin
```

[注]: Windows 版では、[スタート] メニューからも起動できます。

詳細は、ガイドブック『[SOA プラットフォームの起動方法](#)』を参照してください。

4. Fiorano Studio の exe ファイル

次のフォルダーに studio.exe が格納されています。Fiorano Studio は、ビジネス プロセスの構築や実行、Fiorano サーバー群のコンフィグなどに使用するツールです。

```
C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoSOA9.0.0¥Studio¥bin
```

studio.exe へのショートカットが、インストール時にデスクトップに生成されています (Windows 版)。

Fiorano Studio の実行は、次の 3 種類の方法で行えます。

- Windows の [スタート] メニューから実行
- デスクトップのショートカットから実行
- 上記フォルダーの exe を実行

5. Flash ベースのデモ

Flash を利用したデモが用意されています。Web ブラウザーからデモを実行することができます。下記の index.htm をブラウザで開いてください。

```
C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoSOA9.0.0¥FlashDemos¥index.htm
```

現行バージョン (SAO 9.0.0) では、使用方法についてのデモを 3 種類用意しています。

1. Connecting to Enterprise Server (ESB ピアを分散させた場合のコンフィグ方法)(2分 15 秒)
2. Creating Event Process (ビジネス プロセスの生成方法) (2分 11 秒)
3. Introduction to Event Process Designer (ビジネス プロセスのデザイン方法) (3分)

現在 (2009 年 3 月) の時点では、日本語版のデモが用意されていません。悪しからずご了承くださいようお願いいたします。

ビジネス プロセス (コンポーネント フロー) の構築方法については、ガイドブック『[オーケストレーション概要_基礎編](#)』を参照してください。

3 ライセンス ファイルのインストール

3.1 ライセンス ファイル (fiorano-soaX.lic) のコピー

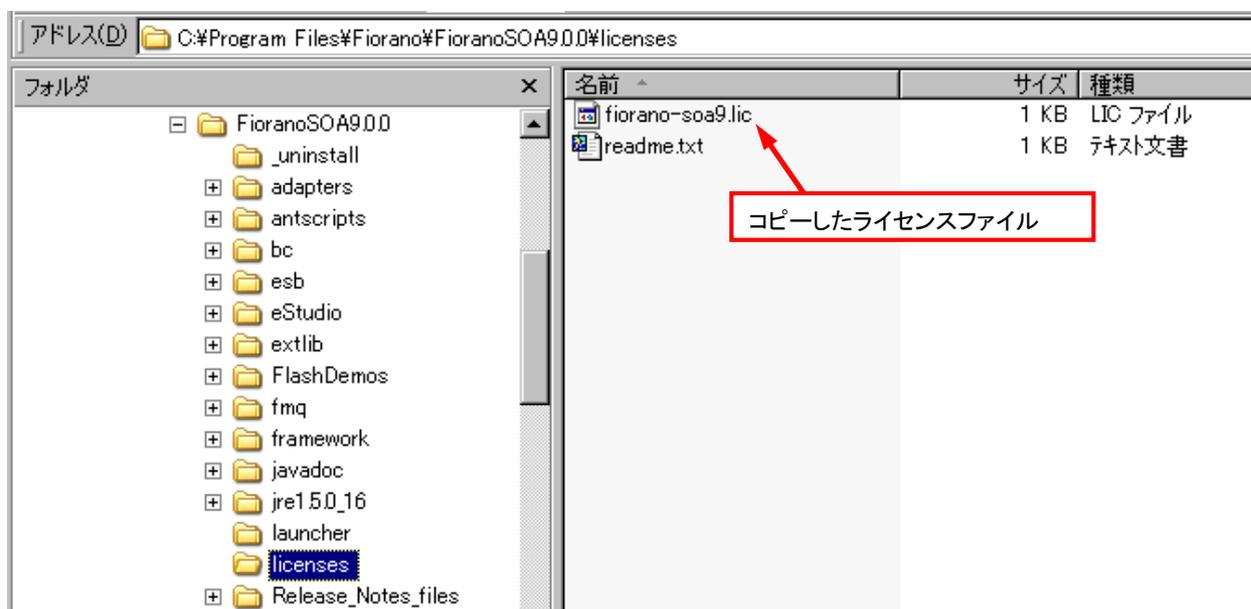
メールに添付されて送られてきたライセンス ファイルを、下記のフォルダーにコピーします。

ライセンス ファイル名 : `fiorano-soaXXX.lic` (XXX は、バージョン番号)

コピー先のフォルダー : `C:\Program Files\Fiorano\FioranoSOA9.0.0\licenses` (Windows 版)

: `/home/Fiorano/FioranoSOA9.0.0/licenses` (Unix、Linux 版)

フォルダー名に付加されているバージョン番号に注意してください。上記は、Ver. 9.0.0 の場合を示しています。



3.2 ライセンスの確認方法

ライセンス マネージャによって、ライセンスを確認することができます。

1. ライセンス マネージャの起動

Windows の [スタート] メニューからの起動

[プログラム] -> [Fiorano] -> [Fiorano SOA 9.0.0] -> [Fiorano Tools] -> [Fiorano License Manager]



スクリプト ファイルによる起動

Windows 版

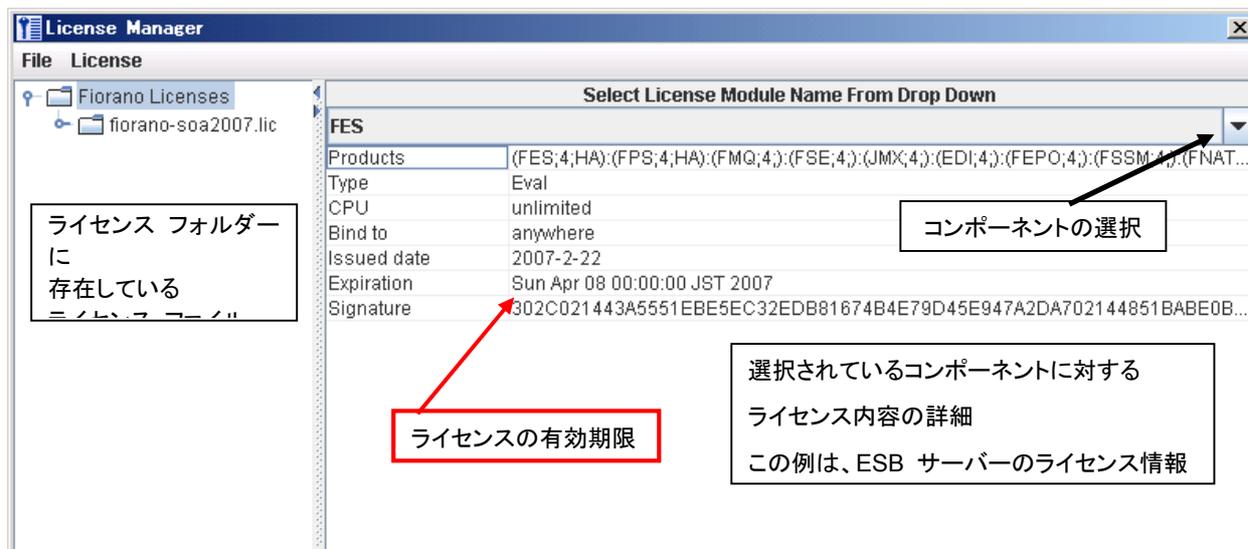
```
C:\Program Files\Fiorano\FioranoSOA9.0.0\framework\tools\LicenseManager\bin\lm.bat
```

Unix / Linux 版

```
%INSTALL_DIR%/framework/tools/LicenseManager/bin/lm.sh
```

2. ライセンス マネージャでの確認

下図は、ライセンス マネージャの画面を示しています。



ライセンス マネージャを起動すると、通常、上図のように右側のペインに ESB サーバーに対するライセンス情報が表示されます。ライセンス情報が表示されていない場合は、右上にあるコンポーネント選択のプルダウン メニューからコンポーネントを選択してください。

評価版ライセンスには、すべてのコンポーネントに対するライセンスが含まれていますので、どのコンポーネントを選択しても上図と同じ内容の情報が表示されます。

ライセンス情報の各項目の意味は、次の通りです。

Products : 左側のペインで選択したライセンス ファイルに含まれている製品コンポーネントの一覧。

評価版ライセンスでは、すべてのコンポーネントが含まれています。

Type : ライセンスの種類。評価版の場合は、Eval と表示されます。

Bind to : ライセンスとマシン名の結びつきを示しています。通常のライセンスではホスト名もしくは IP アドレスが表示されますが、評価版の場合はマシンを限定しないため anywhere と表示されます。

Issued date : ライセンスの生成日時。

Expiration : ライセンスの有効期限。評価版ライセンスの有効期限は、生成日から数えて 45 日の間です。

Signature : ライセンス キー

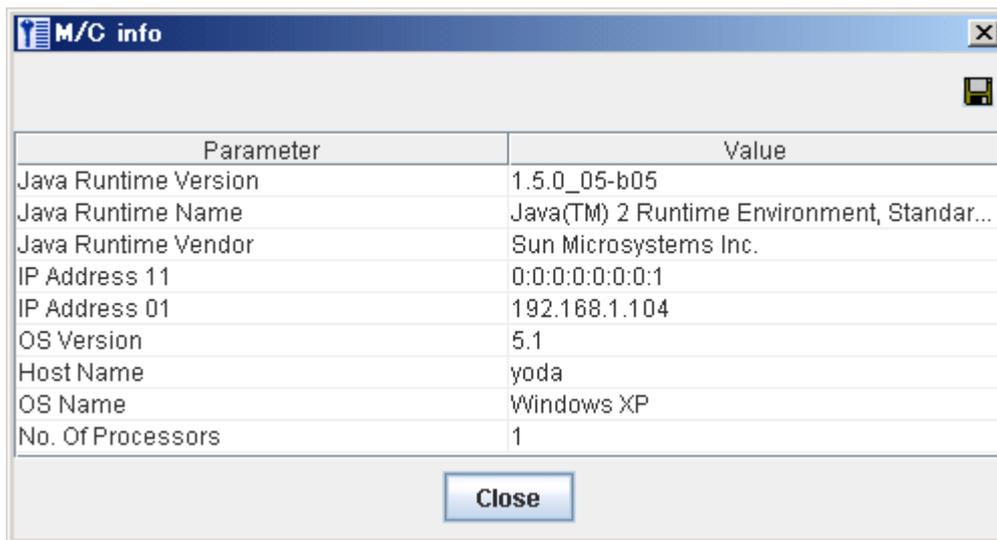
有効期限を確認してください。問題がある場合には、Fiorano Software 日本オフィスまでお問い合わせください。

日本オフィス : info_jp@fiorano.com

3. マシン情報

ライセンス マネージャのメニューから、ライセンスがインストールされたマシンの設定情報を表示させることができます。

[License] -> [Machine info...] を選択すると、設定情報を示すウィンドウが表示されます (下図を参照)。



表示される情報には、

- Fiorano SOA プラットフォームで使用する Java に関する情報 (通常は、バンドルされている Sun JRE 1.5 で設定)
- インストールしたマシンの IP アドレス (DHCP を使用している場合は、ダイナミックに変更されます)、ホスト名、OS 名、CPU 数など

があります。

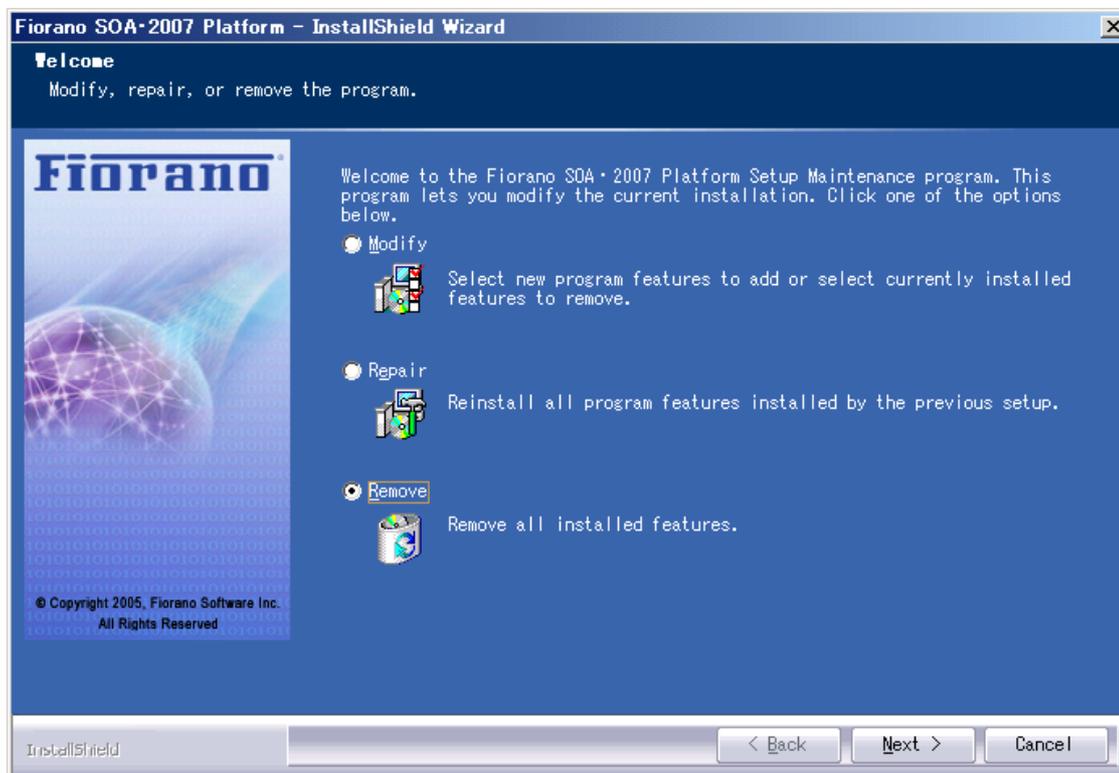
4 Fiorano SOA プラットフォームのアンインストール

Fiorano SOA プラットフォームのアンインストールは、次の 3 種類の方法で行うことができます。

- インストーラ Wizard から
- Windows の [スタート] メニューから
- スクリプト ファイルの実行

4.1. インストーラ Wizard によるアンインストール

Fiorano SOA プラットフォームがインストールされている状態で Wizard を実行すると、次の画面が表示されます。最下段の [Remove] を選択し、[Next >] ボタンをクリックしてください。アンインストールが実行されます。



4.2. Windows の [スタート] メニューから実行

[Uninstall Fiorano SOA 9.0.0] を選択します。



4.3. スクリプト ファイルの実行による方法

インストール ディレクトリ (フォルダー) に格納されているスクリプトを実行します。

Windows 版

```
C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoSOA9.0.0¥uninstall.bat
```

Unix / Linux 版

```
%INSTALL_DIR%/uninstall.sh
```

アンインストールが完了しても、ログ ファイルは削除されません。

したがって、インストール ディレクトリの下には [FioranoSOA9.0.06] ディレクトリとサブ ディレクトリの一部が存在したままとなります。不要な場合には、手動で削除してください。